

令和5年度 学校評価報告

草加市立新田中学校
(令和6年2月8日作成)

1 学校教育目標 豊かな心と 学ぶ意欲をもち 広い世界で たくましく生きる生徒	
<ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本の確実な定着 ・積極的な生徒指導の推進 ・「特別の教科 道徳」の充実 ・生徒を主体とした特別活動の推進 ・教職員の負担軽減及び健康管理 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の授業力向上 ・居場所がある環境づくり ・健康教育・安全教育の推進 ・服務規律の確保
2 重点目標・努力目標 子どもが誇りを持てる学校に	3 前年度の成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・教師ひとりひとりの授業力向上 ・集団活動を通じた豊かな人間性の育成 ・共感的な人間関係の育成 ・教育環境の整備 	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○校務分掌の見直しを行うとともに、採点システムの導入をし、校務全般の効率化を図った。 ○タブレットを活用して授業を展開する教員が増えた。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ●学校公開の頻度が少なく、保護者により教育活動への理解を促進する取組が必要である。

4 評価表 ※評価基準 [A：十分達成している B：おおむね達成している C：やや不十分である D：不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○期日に前もって職員会議資料を回覧することで、会議のスリム化を図るとともに、広く意見を反映させた、 ●分掌について偏りを感じている職員がいる。不公平感のない分掌分担を行っていく。
	②研究・研修	<ul style="list-style-type: none"> ・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○計画的に、必要感のある研修を時期を逃さずに行うことができた。 ●小中で連携した研修計画を、内容・方法を含めてより効果的に行っていく。
	③保健管理・安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○避難訓練では新しい試みを行い、教員・生徒の意識を新たにすることができた。 ●登校指導など方法を再検討していくべき活動がある。
	④情報管理・施設設備管理	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○施設の不備について、迅速に対応し改善することができた。 ●個人情報の取り扱いについて職員全体により周知していく。
	⑤地域との連携 開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> ・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会の推進 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○学校行事等ですぐーを活用して保護者の理解を得ながら行うことができた。 ●保護者に学校活動を参観していただくことができる機会をより設ける。
	⑥幼保小中を一貫した教育	<ul style="list-style-type: none"> ・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じたカリキュラムの編成 ・一貫教育推進のための組織づくり 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○小中での相互の授業参観を実施し、それをもとに合同研修を行うことができた。 ●小中合同での研修を、より職員が積極的に取り組んでいくことができるよう、必要性について発信していく。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> 15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 教育計画の作成 教育活動の評価 目標、方針の周知 授業時数の配当、確保 	A	<p>○教育目標・教育活動について職員が共通理解のもと日々の活動を推進することができた。</p> <p>●授業時数の確保のための時間割の運用が十分でないときがあった。</p>
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 	A	<p>○教員一人ひとりの深い教材理解と熱心な指導により、多くの生徒が主体的に授業に臨むことができた。</p> <p>●経験の浅い教員への教科内での研修の機会を積極的に設けていく。</p>
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の作成 各教科との関連 道徳的実践力の育成 家庭、地域社会との連携 いのちの教育の推進 	A	<p>○前年比で道徳の授業数の充実を図ることができた。</p> <p>●研修と連携し、道徳の授業力の向上に努めていく。</p>
	④特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 学級活動、学級経営 学校行事 生徒会活動 	A	<p>○生徒会活動において、生徒と教員が協働して企画・運営していく場面が増えた。</p> <p>●年間指導計画と連動した計画的な学習計画を推進する。</p>
	⑤「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導内容の充実 指導方法の工夫と改善 評価の工夫 地域の人材・物的資源の活用 	A	<p>○行事に関して、内容を精選して充実した活動を行うことができた。</p> <p>●年間指導計画と連動した計画的な学習計画を推進する。</p>
	⑥生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な生徒指導 問題行動への対処 教育相談、生徒理解 いじめ防止対策 保護者、地域、諸機関との連携 	A	<p>○職員間の連携を大切に、問題行動を未然に防ぐ指導を継続的に行うことができた。</p> <p>●問題が起こったときに保護者の理解を得ながら解決に向けて方策を考えていく。</p>
	⑦キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> 組織的なキャリア教育 指導方法の工夫と改善 啓発的経験の充実 進路情報の収集・活用 職場体験活動 	A	<p>○2年生で高校訪問と併せて、高校の先生を招いて保護者も交えて話を聞く機会を設けることができた。</p> <p>●3年間を通した指標を教職員間で共有していく。</p>
	⑧特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画、支援計画 指導方法の工夫と改善 通常学級との交流 諸機関との連携 校内支援体制の整備 	A	<p>○通常級との行事・授業の交流を、個に応じて柔軟に行うことができた。</p> <p>●通常級に在籍する、特別な支援を要する生徒への指導を関係機関と連携して行っていく。</p>
	⑨学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画、支援計画の作成 図書館補助員の活用 諸機関との連携 図書館の整備 図書館利用の工夫 	A	<p>○委嘱を通して、図書の種類・冊数の充実させることができた。</p> <p>●貸出冊数の多い生徒と少ない生徒に偏りがある。読書の魅力を発信する工夫をしていく。</p>
	⑩情報教育	<ul style="list-style-type: none"> 教育計画の作成 校内研修の充実 ICT機器の積極的な活用 情報モラル教育の推進 	A	<p>○情報機器活用の研修を行い、授業でタブレット端末を活用する教員が増えた。</p> <p>●情報機器の使い方、管理方法について検討していく。</p>

⑪人権教育	<ul style="list-style-type: none"> ・全体計画の策定 ・各教科との関連 ・人権感覚の育成 ・校内研修の充実 	A	<p>○教育活動全般において、適切に行われている。</p> <p>●人権に対する意識を高める指導を年間を通して継続的に実施していく。</p>
-------	--	---	--

(様式2・中学校用③)

草加市立新田中学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
Ⅲ 特色 ある 学校 づくり	新田中学校区の小中連携	中学校区の家庭学習取組 <ul style="list-style-type: none"> ・いじめ撲滅運動 ・スマイルサポーターの取組 ・相互授業研究会の機会 ・乗り入れ授業の充実 	B	<p>○小中相互の授業参観を実施し、それを基にした合同研修を実施することができた。</p> <p>●実施に際して教員の負担感が増したという意見があった。よりよい方法を検討する。</p>
	教育相談	<ul style="list-style-type: none"> ・相談員やスクールカウンセラーとの連携 ・生徒に寄り添った適切な指導 	A	<p>○教育相談部会を中心に、相談員やスクールカウンセラーと連携し、職員一丸となって適切な指導と対応を行うことができた。</p> <p>●QUの結果を活用し、不登校や集団不応の可能性がある生徒への対応に役立てる。</p>

5 総合評価 (学校関係者評価を含む)

・職員、保護者による学校評価の評価項目を総合してみると、「十分達成している」「おおむね達成している」の合計が90%以上の項目が全体の6割に達している。保護者から、時間や学習のルールを守ることができている、という点で特に高い評価を得ている。職員の評価においては、学校目標の達成に向けて共通理解のもとで取り組むことができているという項目をはじめ、14項目で100%の評価となっている。しかし、保護者アンケートにおいてC、D評価の意見も散見され、その多くは、学校の考えが保護者の理解を得られていないことが一因となっている。保護者とのより緊密な連携を図りながら教育活動を展開していく。

・コロナ禍が明け、以前の教育活動が戻りつつある今年度、学校行事の精選、運営方法の再検討を積極的に行った。教員の負担とのバランスをとりながら、来年度も継続して検討を重ね、より効果的な教育活動の実践を行っていく。

6 次年度の改善策

・「地域との連携」、「開かれた学校づくり」を推進していくため、学校公開や授業参観の機会をより積極的に設けていく。また、保護者と教員が対話する場面も増やし、保護者や地域が求めているものを教員が理解するとともに、学校が行う教育活動の意図を正しく保護者と地域に理解が得られるような仕組みづくりを実施する。

・授業時間と行事、教員の働き方を両立させる教育課程の実現を行っていく。行事の精選だけでなく、より公平で実効的な校務分掌の在り方を検討する。

・小中を連携した研修・教育活動を推進する。小中9年間を見通した、「新田中学校区15歳の姿」を校区の小中で共有し、教育実践に反映させていく。